



抑留中に家族に宛てた唯一の手紙。
ソ連兵が内容を読み取れるように片仮名で書かされた。

戦争

終戦から65年目の夏

シベリア抑留を 乗り越えて

「あの体験を超えるものはない」 22才で入隊し満州へ

たなか とらいち
田中 虎市さん

【プロフィール】
大正9年12月9日生まれ 90歳
農家の長男として、比婆郡山内西村字高茂に生まれる
高等小学校卒業と同時に農業に従事
昭和17年3月 現役兵として航空隊に入隊、満州に渡る
昭和20年8月 終戦と同時にシベリア抑留
昭和22年8月 復員以来一貫して農業に従事



終戦から65年目の夏を迎えました。あの戦争で、多くの尊い命が失われました。その犠牲の上に今の平和があることを忘れてはなりません。戦争という名の殺し合いにより、多くの人が犠牲になりました。戦争による惨劇は、癒えることのない傷として、生き永らえた人の心の奥に深く刻み込まれています。そして、終戦してもなお戦禍に翻弄された壮絶な体験がありました。



入隊後の田中さん

22才で入隊し満州へ

昭 和17年3月1日、22才の時に滋賀県の航空隊に入隊しました。そこで4カ月間、兵士になるための基礎訓練を受けた後、満州（現在の中華人民共和国東北地区および内モンゴル自治区北東部）へ配置されました。

入隊したての昭和17年はまだ日本軍の元気がよく、真珠湾でも勝利し、正に飛ぶ鳥を落とす勢いでした。しかし、昭和18年に入った頃から勢いに陰りが見

敗戦から抑留へ

え始め、19年に入ると徹底的に情勢は悪化、負け戦ばかりが続きました。当時、満州には100万人以上の兵士が駐留していましたが、多くの仲間が危なくなつた南方へ救援に向かいました。

昭 和20年8月9日、ソ連軍が突然国境付近のキチリンに侵攻して

きました。私たちの部隊は、キチリンでダム警備にあたっていました。少数

だったため交戦はせず、撤収が命じられました。キチリンを放棄し、満州の首都の新京に戻つたのが8月15日。ちょうどその日の正午過ぎ頃、「日本敗戦」の知らせが届きました。みんな落胆し、頭の中が真っ白になりました。この日、ソ連軍が満州を占領。負けを実感した瞬間でした。その後、千人単位の部隊を編成させられると、ソ連兵に取り囲まれ捕虜にされました。救援に来た後続部隊も次々と捕らえられ、60万人が捕虜になつてしまいました。

続出する犠牲者

捕 虜のうち約6万人が命を落とし酷な重労働と寒さ、飢えによるものでした。鉱山などで朝から晩まで休みなく働かされました。また、食糧は7000

カ所を超える収容所に散らばる60万人全員には行き届く状況ではありませんでした。食糧といつてもとうもろこしやこりやんなど粗末なものしかなく、みんな栄養失調になりました。多くの者が、重労働で体を壊して下痢をし、そのうち血便が出るようになる

家族への思い

捕 虜にされてから、家族とは丸2年間音信不通でした。ただ1度だけ、手紙を書くことを許されたこと

でしたが、シベリアの寒さは想像を絶しており、凍傷になつて手足の指が腐る者が出るなど、衰弱に拍車をかけました。どんなにふらふらになつても労働にかりだされました。雨が降つて衣服はずぶぬれになつても着替えもなく、それを丸2年着続けました。収容所は、逃げられないように鉄条網が2重に張つてありました。仲間がはるごうで湯を沸かそうと鉄条網の間の雪を取りかけただけで、脱走したと見なされ射殺されてしまいました。とにかく

戦争は何も生まない

ア メリカの原爆投下とこのシベリア抑留はともに人道に許されない暴挙です。そして、それをもたらした戦争こそがすべての悪の根源です。戦争は何も生み出しません。この胸に燃え盛る怒りの炎は、たとえ私の体が灰になつても、決して消えることはありません。

がありました。このときだけ心が安らぎ、国へ帰れた気分になりました。私も2カ月近く下痢が続いた時期があり、その時は死を覚悟しましたが、不思議なことにあるとき下痢がぴたりと止まりました。帰国して知りませんが、私の無事を祈り、母が山を越え1きほど離れた神社へ毎日お参りしていたといいます。母の一念が私を救ってくれたのだと思ひ、涙が止まりませんでした。

庄原市戦没者追悼式 並びに平和祈念式典

平成22年度

本市の戦没者に哀悼の意を表すとともに、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、恒久平和を祈念するため、庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典を次のとおり開催します。多くの皆さんの参加をお願いします。

- とき 8月24日(火) 10時～
- ところ 庄原市民会館

※当日は要約筆記による案内に加え、イントラネットでの中継も行いますので、各学校、公民館（自治振興センター）などでもご覧いただけます。

※各支所からの送迎バスをご用意しています。利用希望のときは、8月23日(月)までに各支所に申し込んでください。（定員がありますので、ご希望に添えない場合はご了承ください。）

社会福祉課障害者福祉係	☎0824-73-1210
西城支所保健福祉室	☎0824-82-2202
東城支所保健福祉室	☎08477-2-5131
口和支所市民生活室	☎0824-87-2114
高野支所市民生活室	☎0824-86-2114
比和支所市民生活室	☎0824-85-3002
総領支所市民生活室	☎0824-88-3110

問い合わせ